

漁海況情報

平成 26 年 11 月 27 日 第 18 号 (通巻 555 号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎 2861-3

TEL:0837-26-0711 FAX:0837-26-1042 Mail:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

海鳴りネットワーク :<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

【ヨコワ（クロマグロ幼魚）漁況予報】

今年度漁期（平成 26 年 11 月から平成 27 年 2 月）におけるヨコワ水揚量は「前期並み」でしょう。

< 予報の考え方 >

山口県日本海側におけるヨコワ漁は、南西諸島周辺や日本海で生まれたクロマグロ幼魚（当歳魚）が北上した後、水温の低下とともに南下する群を漁獲しています。

現在、ヨコワの漁況にどのような要因が影響しているのか調査・分析しているところですが、今のところ以下の項目が影響していると考えられましたので、これらを根拠として予報を行いました。

< 予報の根拠 >

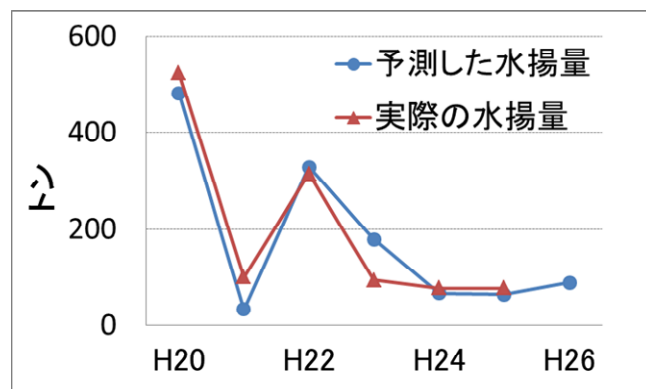
1) 今期発生群の資源量

高知県の 0 才魚漁獲量から推定される南西諸島周辺生まれの資源量と、島根県の 0 才魚漁獲量から推定される日本海生まれの資源量は、いずれも前期を下回っていると考えられます。

2) ヨコワの滞留条件

ヨコワの胃内容物の調査から、今期の見島周辺の餌料環境（ウルメイワシの豊度）は良いと判断され、ヨコワの滞留にはプラス要素になると考えられます。

以上より、今期発生群の資源量は前期を下回っているものの、ヨコワの滞留条件は悪くないことから、今期の水揚量は不漁であった前期並みと予測されます（図）。



上図の予測値の計算には、水産庁国際資源評価等推進事業での取得データを使用。